



# エコキャップ運動で

## 途上国の子どもたちにもワクチンを

### ■ 広島県商工会女性部連合会

広島県商工会女性部連合会（井上文江会長）は、ペットボトルのキャップを集めて途上国の子どもたちにもワクチンを届ける「エコキャップ運動」に取り組んでいる。植田賢治広島県連会

長も全面的にバックアップしており、身近な社会貢献活動を通して商工会女性部を広くアピールしていきこうと、商工会法施行50周年記念事業として全国的に展開。商工会事務所や会員事業所、店舗などにキャップ回収箱を

設置して回収する。

集まったキャップは、NPO法人エコキャップ推進協会を通じて、再資源化して地球環境の改善に貢献するとともに、その売却益でワクチンを購入して病気に苦しむ途上国の子どもたちにも届ける。

### 「すべての女性部

員が負担なく参加できる女性部活動」なんです」と井上文江会長。会合やイベントなどの参加が難しい部員であつても、回収箱を事務所や店頭に設置しておくことで女性部活

動に参加することができ、女性部への帰属意識も自然と高まる。さらに、お客の来店動機となり、店先でのコミュニケーションも増えるため、販売促進にも一役買っているという。

### 「ゴールデンウィーク」には、

「ひろしまフラワーフェスティバル」で回収イベントを実施。3日間で約4万個のキャップを回収した。これは、ポリオワクチン50人分、CO<sub>2</sub>発生抑制量315kgに相当する。期間中は県内各地の女性部員が参加し、啓発ポスターを掲示したりチラシを配布したりして、キャップの回収を呼びかけた。会場での回収活動は地元テレビで生中継され、「ワクチンになると知って急いで持ってきた」とキャップを持つて駆けつけてくれた人も多かった。

こうした活動が実を結び、小中学校や公共施設にも回収箱が設置されるなど大きな広がりを見せている。永田近

エコキャップ推進協会事務局長は、「全国的に取り組んでいるところはほかにはない」と感謝の意を表す。湯崎英彦広島県知事も、地域の小さな活動が世界につながる大きな活動となってい



マスコットキャラクター「キャッピー」と一緒に取材を受ける井上文江会長

ることを高評価、積極的に後押ししている。

### 9月末現在、

回収したキャップは186万3200個、ワクチンは2329人分、CO<sub>2</sub>発生抑制量では1万4672kgとなっている。井上文江は、「子どもから大人までみんなが参加できる。地域に根差した活動になるように、今

後も精一杯取り組んでいく」と継続へ強い意欲を示した。



イベントでは、回収に協力してくれた人に花の種を進呈した